No.1（修正）

H24-A-11 深度10.20～12.76m 全景写真の記載（No.1）を修正

従前	見直し後

従前

第８３３回審査会合

机上配布資料１

敦賀発電所２号炉　敷地の地形，地質・地質構造について

参考資料１　薄片観察結果

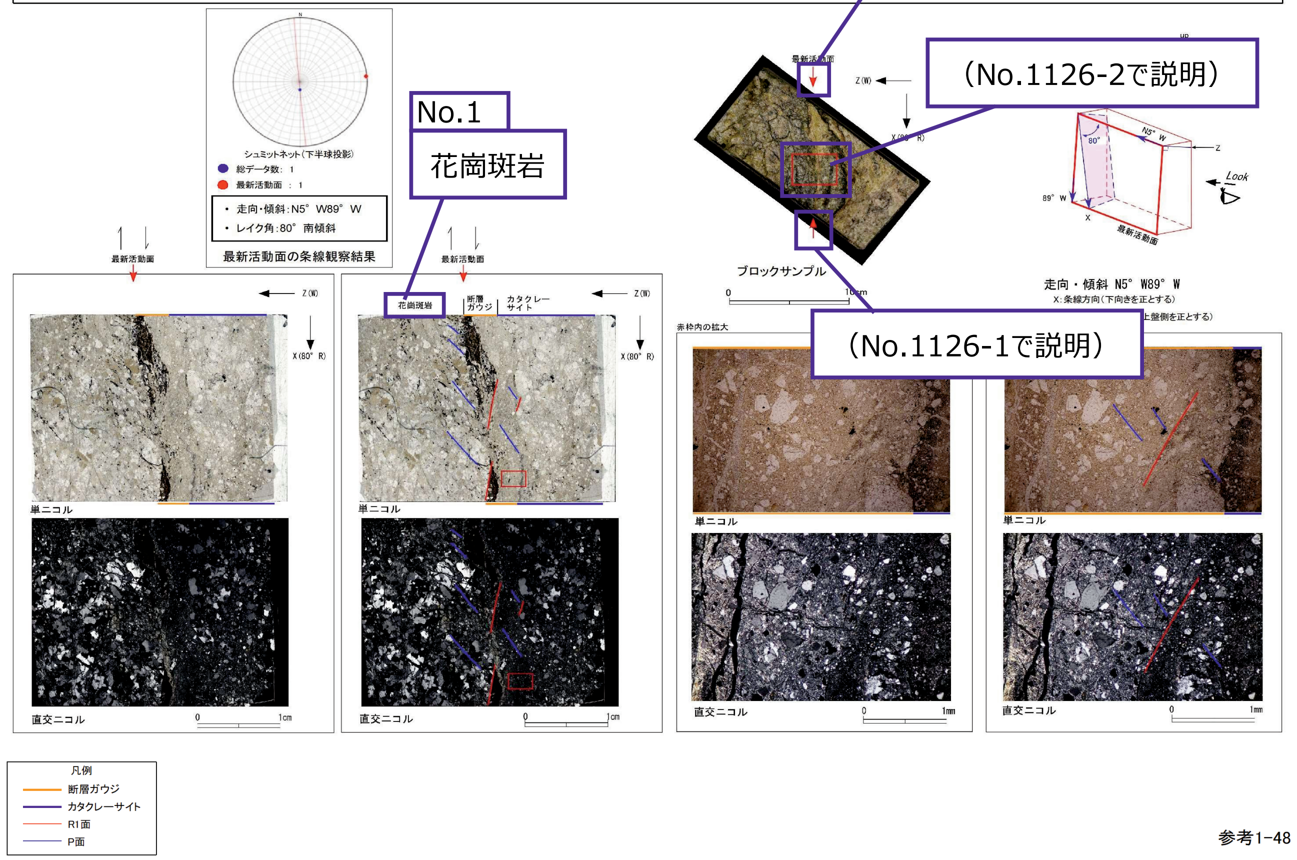
参考1-48頁

第833回審査会合　机上配布資料1に追記（青太枠）

（No.1126-1で説明）

K断層　薄片試料観察（H24-A-11　深度11.81m）

H24-A-11のボーリングコア（深度11.81m）から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは，逆断層成分が卓越する。



参考1-48

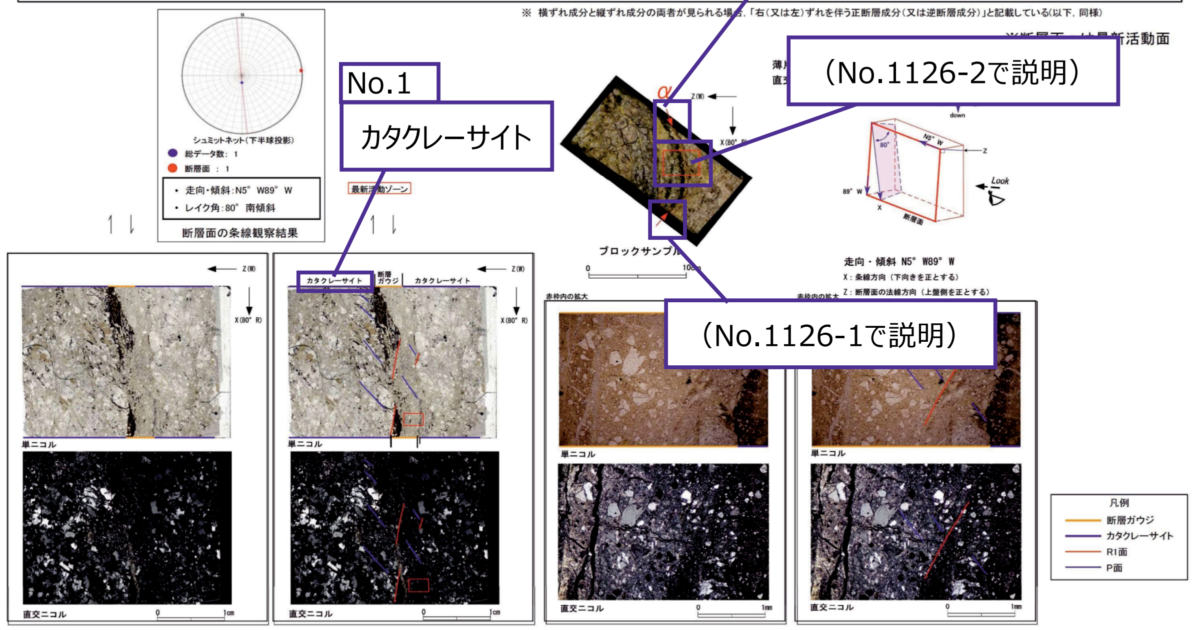
見直し後

・H24-A-11のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは，逆断層成分※が卓越する。
・最新活動ゾーンには，断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが，カタクレーサイトの特徴は，カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられることから断層ガウジと判断した。
- （断層ガウジ）せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
- （断層ガウジ）基質は粘土鉱物を主体とする。
- （断層ガウジ）粘土状部の分布は帯状で直線的である。
- 岩片は少ない。
- （カタクレーサイト）角ばった岩片が多い。
- （カタクレーサイト）ジグソー状の角礫群が認められる。

（No.1126-1で説明）

※ 横ずれ成分と縦ずれ成分の両者が見られる場合，「右（又は左）ずれを伴う正断層成分（又は逆断層成分）」と記載している（以下，同様）

6-7-1543



第7.4.4.401図（7）　K断層　破砕部性状　H24-A-11　深度10.20～12.76m（変位センス，薄片観察による断層岩区分（1/3））

No.2～5 概要

（1/10）

1．変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を13.46mに変更（No.2）

【理由】コアを再観察した結果、深度13.46mが細粒部を伴い最も直線的であった

・走向・傾斜をN33W60SWに変更（No.3）

【理由】最新活動面の深度（No.2）の変更に伴い、当該深度のせん断面における走向・傾斜に変更

・条線方向を53Rに変更（No.4）

【理由】走向・傾斜（No.3）の変更により、基準方位が変わることに伴う変更

・薄片試料を、最新活動面と直交する方向で再作製（No.5）

【理由】薄片試料の作製作業時に正しい情報が反映されていなかった

【断層連続性評価への影響】なし

2．変更箇所

a　最新活動面の深度を「13.46m」に変更（No.2）（ただし、フォーム見直しにより数値の記載なし）

b　走向・傾斜を「N33W60SW」に変更（No.3）

c　条線方向を「53R」に変更（No.4）

d　見直し後の走向・傾斜、条線方向に基づく図に変更（No.3、4）

e　薄片試料の切断方向を「最新活動面と直交」する方向に変更して再作製（No.5）

H24-E-2 深度13.23～15.82m 最新活動面の深度（No.2）を変更、それに伴い、走向・傾斜（No.3）及び条線方向（No.4）を変更

従前

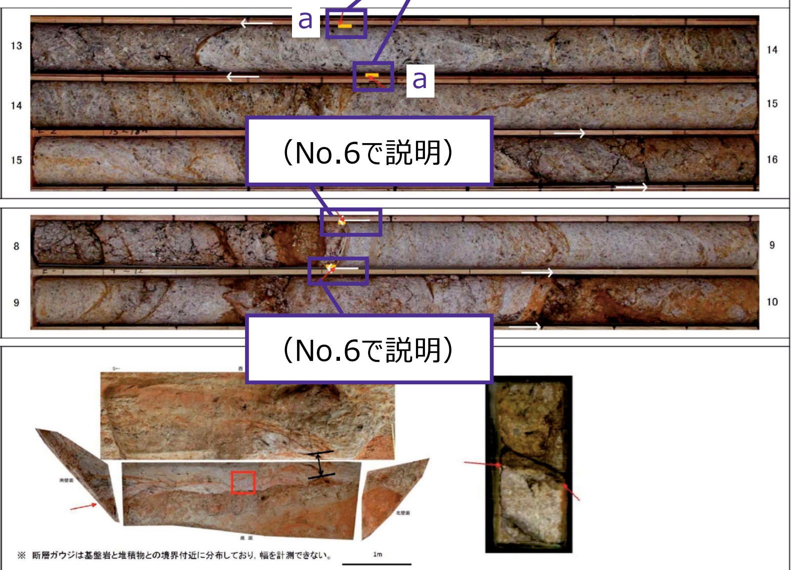
第８３３回審査会合
机上配布資料２
敦賀発電所２号炉　敷地の地形，地質・地質構造について
参考資料２　性状一覧表
参考2-44頁

第833回審査会合　机上配布資料2に追記（青太枠）

3. K断層
性状一覧表

No.3: N21W60W　No.4: 60R　No.2:（赤矢印位置）

断層名	確認箇所	破砕帯範囲 上盤深度(m)	破砕帯範囲 下盤深度(m)	走向	傾斜	破砕幅(cm)	断層ガウジ・断層角礫の幅(cm)	最新活動面 明瞭なせん断構造変形構造	最新活動面 平滑さ	条線方向	変位センス 鉛直	変位センス 水平
K	H24-E-2（傾斜65°）	13.23	15.82	N21W	60W	224.3	3.0	有	非平滑	60R	逆	右
	H24-E-1（傾斜45°）	8.41	9.70	N21W	71W	111.7	1.0	有	非平滑	55R	逆	右
	Lカットピット	－		N13W	76W	30.0	－	有 ＊1	非平滑 ＊1	80R	逆	－



凡　例
：最新活動面　← →：破砕幅　：断層ガウジ　○：粘土の狭在物が認められる箇所　＊1：露頭　＊2：試掘坑

【破砕幅】
粘土状破砕部，砂状破砕部，角礫状破砕部，
固結した粘土状破砕部，固結した砂状破砕部，固結した角礫状破砕部
の合計の幅とし，破砕部の走向傾斜から真の幅に換算した。

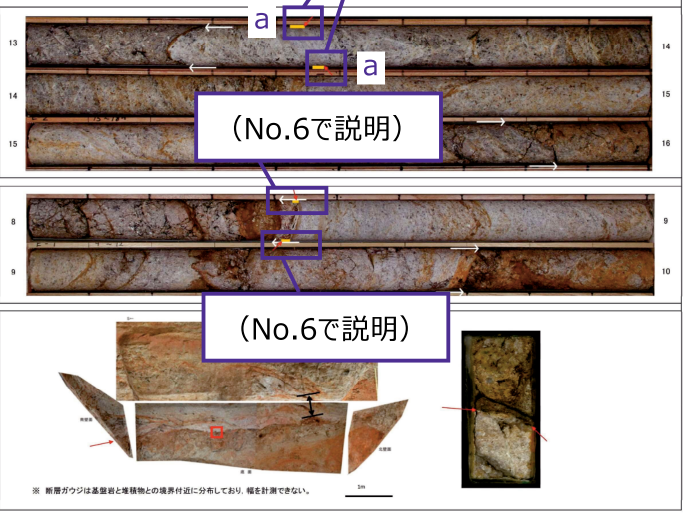
【平滑さ】
平　滑：最新活動面が直線的なもの
非平滑：最新活動面が湾曲するもの

参考2-44

見直し後

No.3: N33W60SW　No.4: 53R　No.2:（赤矢印位置）

確認箇所	破砕部番号	破砕帯範囲 上端深度(m)	破砕帯範囲 下端深度(m)	走向	傾斜	破砕幅(cm)	断層ガウジ・断層角礫 有無 肉眼	断層ガウジ・断層角礫 有無 薄片	断層ガウジ・断層角礫 有無 総合	断層ガウジ・断層角礫 幅(cm)※1	最新活動面の明瞭なせん断構造変形構造※1	条線方向※2	変位センス※3 鉛直	変位センス※3 水平	破砕帯名／断層名
H24-E-2（傾斜65°）	－	13.23	15.82	N33W	60SW	224.3	有	有	有	3.0	有	53R	逆	右	K断層
H24-E-1（傾斜45°）	－	8.41	9.70	N21W	71W	111.7	有	有	有	1.0	有	55R	逆	右	K断層
Lカットピット	－	－	－	N13W	76W	30.0	有	有	有	－※	有	80R	逆	－	K断層



※1 断層岩区分の総合評価に基づき記載し，肉眼「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「－」を記載
※2 斜めボーリングの場合は，計測値を補正した値を記載
※3 卓越しない成分については「－」を記載（両成分「－」は薄片観察を行っていない箇所）
－(上記以外)：データを取得していない箇所

凡 例
：最新活動面　← →：破砕幅
カラーバーが付いていない区間はカタクレーサイトを示す
：断層ガウジ　：断層角礫

第7.4.4.411図 (2)　破砕部性状一覧（K断層）

6-7-1577

H24-E-2 深度13.23～15.82m 最新活動面の深度（No.2）を変更、それに伴い、走向・傾斜（No.3）及び条線方向（No.4）を変更
また、切断方向を見直して薄片試料（No.5）を再作製

従前	見直し後
第８３３回審査会合 机上配布資料１ 敦賀発電所２号炉　敷地の地形，地質・地質構造について 参考資料１　薄片観察結果 参考1-49頁	

従前

第833回審査会合　机上配布資料1に追記（青太枠）

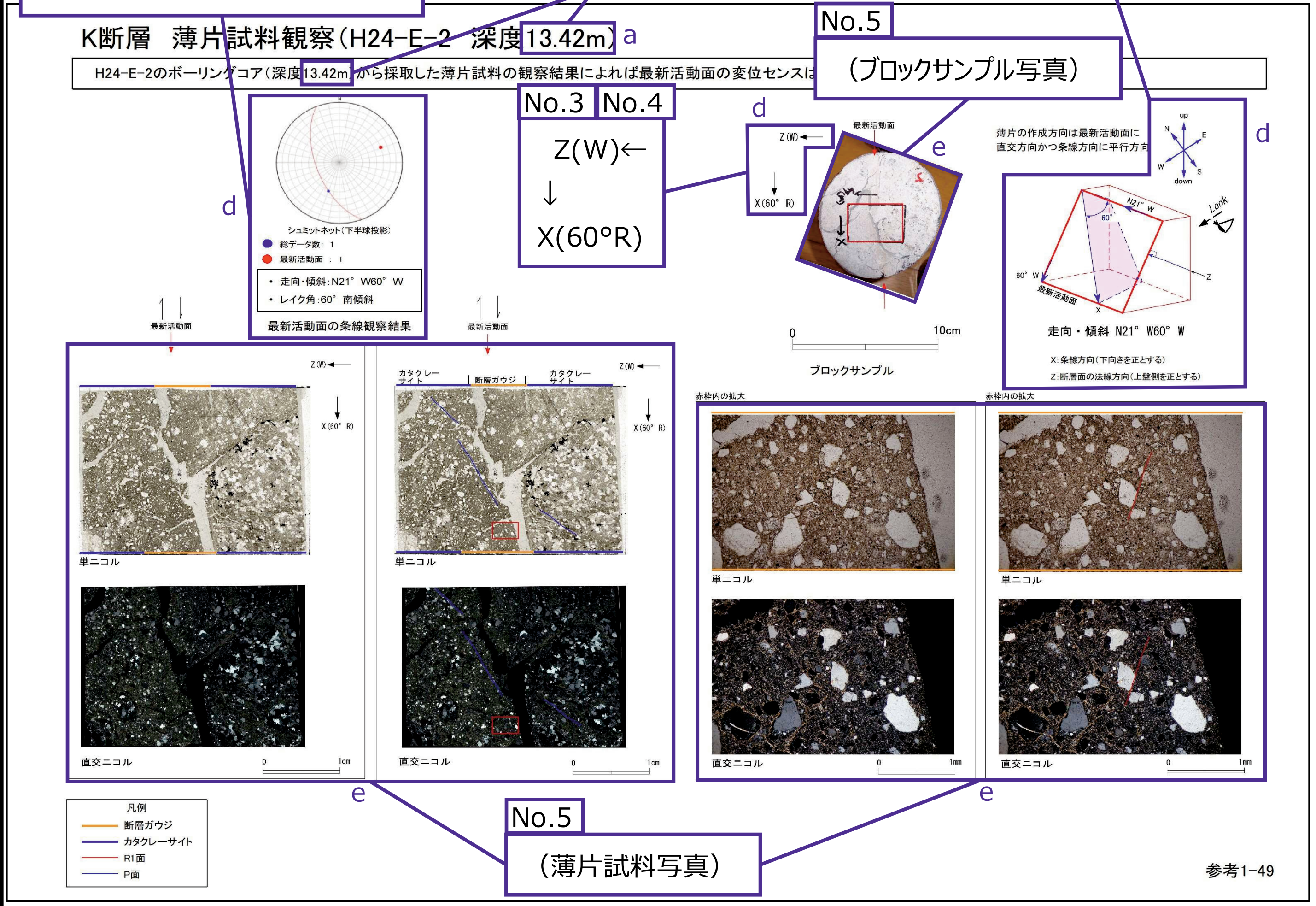
No.3 No.4（走向・傾斜：N21°W60°W、レイク角：60°南傾斜に基づく条線観察結果）

No.2　13.42m

No.3 No.4（走向・傾斜：N21°W60°W、レイク角：60°南傾斜に基づく模式図）

No.5（ブロックサンプル写真）

No.3 No.4　Z(W)←　↓　X(60°R)



No.5（薄片試料写真）

見直し後

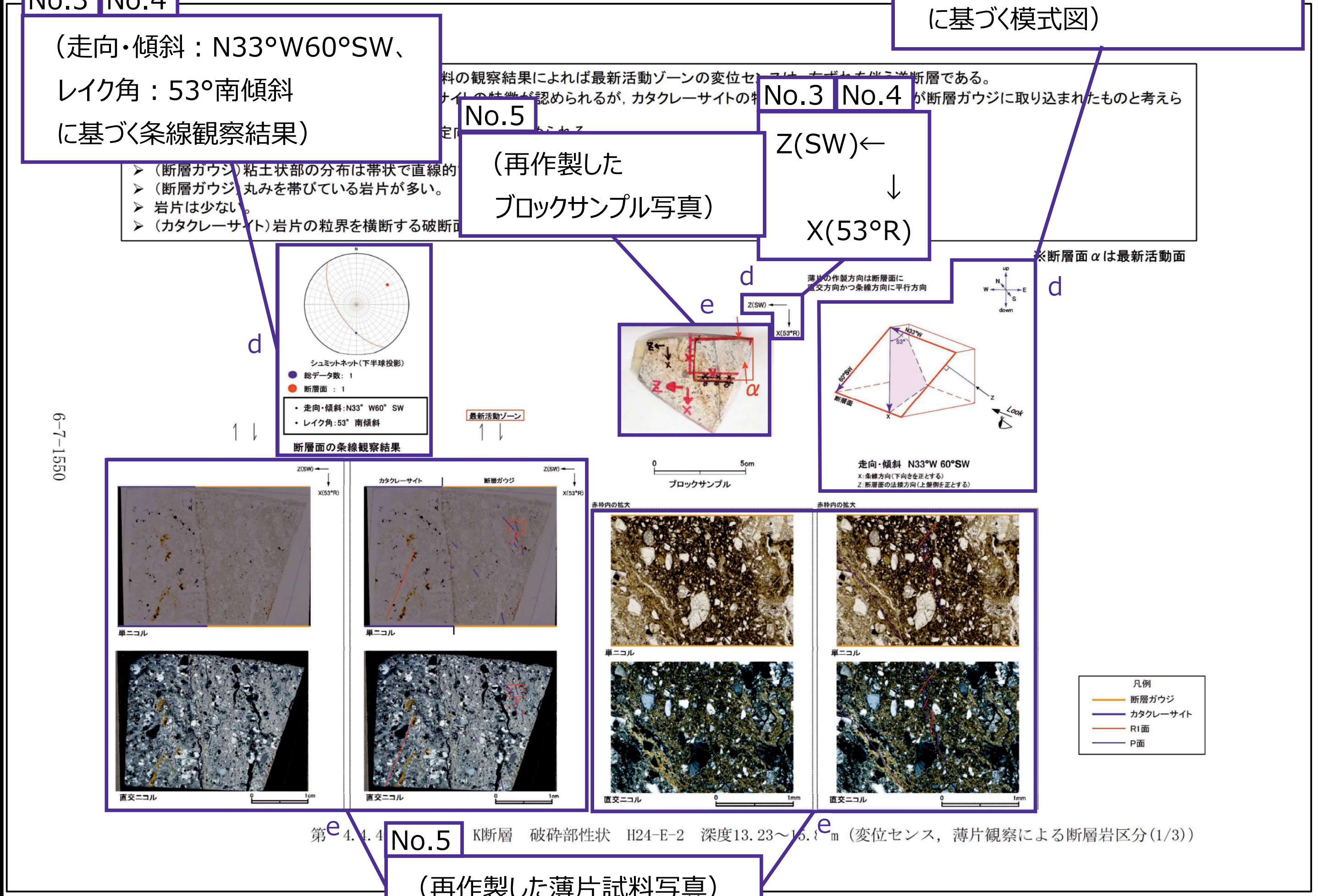
No.2 a（フォーム見直しにより数値の記載なし）

No.3 No.4（走向・傾斜：N33°W60°SW、レイク角：53°南傾斜に基づく条線観察結果）

No.3 No.4（走向・傾斜：N33°W60°SW、レイク角：53°南傾斜に基づく模式図）

No.5（再作製したブロックサンプル写真）

No.3 No.4　Z(SW)←　↓　X(53°R)



No.5（再作製した薄片試料写真）